

た後、静まって、イエス様に目を留めていると、突然“とても良い思い”が訪れることでしょう。それを疑わず、ただ書き留めてください。後で、そのジャーナルを読んだとき、あなたも本当に神様と対話しているのだと分かって、祝福されることでしょう。

最後にひとこと—— 聖書を通して神様を知ることは、心の中で神様の声を聞くために欠かせない基盤となります。ですから、聖書を知ろう、聖書に従おう、という確固たる心構えが必要です。また、あなたの成長と安全のため、しっかりとした霊的カウンセラー（助言者）とのやり取りを維持することが、極めて重要となります。ジャーナルの中で示された、すべての決定的な事柄は、実行に移す前に、カウンセラーの確認を求めべきです。

このトピックについて詳しい情報をお求めの方は、www.cwgministries.org へ。多数の記事（無料）や、ダウンロード書籍（無料）のほか、神様の声を聞くことに関するCDおよびDVDシリーズをご用意しています。また、お電話にて書籍『How to Hear God's Voice』をご注文いただけます。さらに、100種類以上の授業から選べる通信制の学位取得課程もあります

(www.cluonline.com)。

Communion With God Ministries

3792 Broadway Street

Cheektowaga, NY 14227-1123

U.S.A.

1-800-466-6961 or 716-681-4896

cwg@cwgministries.org

日本語でのお問い合わせは

reapeternallife@yahoo.co.jp (担当: 上野)まで

あなたにも 神様の声が 聞ける！

**4つの鍵
を手に入れて
神様との
“一貫性ある”
“強力”かつ
“いのちを与える”
対話を！**



Mark Virkler
(マーク・ヴァークラー)



キリスト教は、宗教の中でも“特異”な存在です。というのも、“今”“ここで”始まって、しかも永遠に存続する“創造主との関係”を可能にしてくれるのは、キリスト教だけだからです。イエス様は宣言されました。「永遠のいのちとは、すなわち**神を知る**ことである。」(ヨハネの福音書 17:2)。残念なことに、教会に通う人々の多くが、“私たちの主との交わり”という素晴らしい祝福を受けられずにいます。その原因は、私たちが内なる神様の声を聞き分けることができなくなってしまったことにあります。「私の羊は、私の声を聞き分ける」という約束が与えられているにもかかわらず、あまりに多くのクリスチャンが、そのような親密な関係を得られず、霊的な飢餓に苦しんでいます。しかし、そのような関係だけが、彼らの心からの願いを満たすことができるのです。

そういう私も、主が4つの単純明快な鍵を啓示して下さるまでは、自分の“羊飼い”の声を聞き分けられない羊でした。これらの鍵(ハバクク書 2:1, 2 参照)は、神様の声という“宝石箱”のふたを開けてくれたのです。

**鍵その1——心の中の
神様の声は、自然発生的
な思いの流れとして“聞こえる”ことが多い。**

ハバククは、神様が自分に語られる時の“音”を知っていました(ハバクク書 2:2)。エリヤは、それを「かすかな細い声」と表現しています(列王記第一 19:12)。私は常々、**音として聞こえる**内なる声を求めていました。確かに、神様はそうのように語られることがあります。けれども、通常、**神様の声は、“自然発生的な思い”、“幻”、“感情”、“印象”といった形で与えられる**ことを、私は発見しました。例えば、皆さんは、車を運転中に、突然、



ある人のことが頭に浮かんで、「彼(または彼女)のために祈らなければ」と感じたことはありませんか。そんな時、神様が「その人のために祈りなさい」と言われているのだと、信じられたのではないのでしょうか。神様の声はどんなふうに聞こえましたか。それは実際に聞こえる声でしたか。それとも、頭にふと浮かんだ自然発生的な“思い”でしたか。

経験上、人間は、霊レベルのコミュニケーションを、自然発生的な思いや、印象、幻として感じ取るのだと、言うことができるでしょう。このことは、聖書がさまざまな側面から証言しています。例えば、“とりなし”を意味するヘブライ語 paga の定義の一つは、「思いがけず出会うこと、もしくは、偶然横切ること」です。神様は、私たちの心に人々を“置かれる”とき、paga——すなわち、私たちの頭を“偶然”横切る、思いがけず出会う思い——を通して、それを行われるのです。

ですから、神様の声を聞きたいときには、思いがけない出会い、すなわち、自然発生的な思いに意識を合わせてください。

**鍵その2——静まって、
神様の思いや感情の内なる流れを感じ取る。**

ハバククは言いました。「私は見張り所に立ち...」(ハバクク書 2:1)。ハバククは知っていました。神様のかすかな内なる自然発生的な思いを聞き分けるには、まずどこか静かな場所に行き、自分自身の思いや感情を静めなければならない、ということを知っていたのです。詩篇 46:10 は、静まって、そこにおられるのが神様であることを知りなさい、と勧めています。私たちの霊の中には、深遠な内なる“知”(自然発生的な流れ)が存在しています。そして、自分の肉と自分の頭(思考力)とを静



めるとき、だれでも、それを体験できます。静まっていないければ、自分自身の思いしか感じ取れません。

静かな讃美の歌を通して神様を愛するという行為は、静まるのに非常に効果的な方法の一つです(列王記第二 3:15 参照)。私は、讃美して、内なる世界を静めてから、自然発生的な流れに自分を開け放ちます。何かやり忘れていることを思い出したら、それを書き留めておいてから、それについて考えるのをやめます。罪悪感や、「自分は価値のない存在だ」という思いに襲われたら、完全に悔い改め、“子羊”の血による洗い聖めを受け、主の義の衣を身に着け、神様の御前で完全に聖い存在として自分を見るようになります(イザヤ書 61: 10; コロサイ人への手紙 1: 22)。

神様からの純粋な言葉を受け取るには、私が静まった状態になるときに、心の焦点がきちんと合わせられた状態にあることが、極めて重要です。なぜなら、私の焦点は、直感的な流れの源だからです。私がイエス様に目を留めているとき、直感的な流れはイエス様から来ています。しかし、何か自分の心の願望を注視し続けるならば、直感的な流れは、その願望から来るものとなります。純粋な流れを求めるならば、私は静まり、心してイエス様に目を留めなければならないのです。これもやはり、静かに“王”を讃美し、そこに生まれてくる“静けさ”の中で“受ける準備”を整えることによって、簡単にできます。

あなたの目をイエス様に留めてください(ヘブル人への手紙 12: 2)。そして、イエス様のご臨在の中で静まり、あなたの心の内にあることを、イエス様と分かち合ってください。そうすれば、自然発生的な思いが、神様の王座からあなたへと流れだします。この時点で既に、あなたは“王の王”と対話しているのです。

鍵その3——祈りの中で心の目をイエス様に留め、御霊の中で全能の神様の夢と幻を見る。



ハバククは言いました。「(私は、とりでに)しかと立って見張ろう」。すると神様は言われました。「幻を書き留めなさい」(ハバクク書 2:1, 2)。ハバククは、祈りながら、幻を求めました。心の目を開き、霊的世界を見つめて、神様が自分に見せたいと思われていたことを、見ようとしたのです。これは実に面白い発想です。

神様は常々、夢と幻を通して語ってこられました。夢と幻は、聖霊様を注がれた者が見るようになる、と神様は具体的に言われました(使徒の働き 2:1-4, 17)。

私は、心の目を開き、幻を求めて見つめようと思ったことは、それまで一度もありませんでした。しかしやがて、それこそ、神様が私に求めていることだと、信じるようになりました。神様は、私の心に“目”をお与えになり、自分の霊の中で神様の幻や“動き”を見ることができるようになりました。私たちの周りには、活発な霊の世界が存在しています。そこは天使や悪霊であふれ返っていて、聖霊様も、(万所に遍在される)御父も、(同じく万所に遍在される)御子イエスもおられます。この現実が私に見えないとすれば、その唯一の原因は、不信仰、もしくは、知識の欠如しか考えられません。

“見える”ようになるには、“見つめ”なければなりません。ダニエルは、頭の中で幻を見て、言いました。「私は見ていた。」「私は見続けた。」さらに「私は見続けた。」(ダニエル書 7: 2, 9, 13)。私は、祈りながら、イエス様を求めて見つめます。また、イエス様が、ご自身の心にあることを、したり言ったりしながら、私に語られている間も、私は見つめ続けます。多くのクリスチャンが、見つめるようになりさえすれば、見えるようになるということに、気づく

ことでしょう。このことはまた、自発的な思いを受け取るための方法論についても言えることです。イエス様は、“インマヌエル”——訳すと、神は私たちと共におられる、という意味——と呼ばれる者です(マタイの福音書 1: 23)。これこそが真実です。キリストはあなたと共におられるのですから、キリストがあなたと共におられるところを、“見て”もよいのです。事実、幻があまりに簡単に“やって来る”ので、それが“あなた自身”にすぎないと考えてしまい、拒絶したくなることすらあるかもしれません。けれども、幻を記録し続けるうちに、すぐに信仰によって疑念は克服され、その内容が全能の神様の中でしか生まれ得ないものだ、分かるようになります。

イエス様は、神様との絶え間ない交わりの中で生きることを、宣言し、また実践されました。イエス様ご自身が、自分からは何事もせず、**御父がしていることを見、御父が言われていることを聞き**、ただそのことだけを行っている、と断言されました(ヨハネの福音書 5: 19, 20, 30)。何と素晴らしい生き方でしょう。

イエス様がされたように、神聖な“イニシアチブ”の中で生きることが、あなたにもできるのでしょうか。もちろんです。あなたの目をイエス様に留めてください。神殿の幕が真っ二つに裂け、直接、神様のご臨在に預かることができるようになりました。神様は、近づいてきなさい、とあなたを招いておられます(ルカの福音書 23:45; ヘブル人への手紙 10:19-22)。「あなたがたの心の目がはっきりと見えるようになりますように。」

鍵その4——ジャーナル活動(祈りと、神様の答えとを書き留めること)は、神様の声を聞くという行為に大きな自由をもたらす。



神様はハバククに、幻を書き留めなさい、と言われました(ハバクク書 2: 2)。これは、例外的な命令ではありません。聖書には、個人的な祈りと、それに対する神様の答えが、多数記録されています(詩篇、多くの預言者、黙示録など)。

私はこのプロセスを、「両方向ジャーナル」と呼んでいます。これは実に、神様の内なる自然発生的な流れをはっきりと見分けるための素晴らしい“触媒”です。なぜなら、私自身がジャーナルをつけるとき、それが神様から来ているという確信のもとで、長時間、信仰によって書き続けることができるからです。私が神様から受け取ったものだ、と信じていることは、吟味されなければならないことは分かっています。けれども、吟味には疑う気持ちに伴い、疑う気持ちは神聖なコミュニケーションを中断させてしまいます。ですから、私は、それを受けようとしている間は、吟味したくありません。私は、ジャーナルを活用しながら、信仰をもってそれを受けることができます。その流れがやんだ時点で、それを吟味したり注意深く調べたりして、聖書に矛盾しないかどうか確かめられるのですから。

ジャーナルをつけてみると、その効果の大きさに驚かされることでしょう。最初のうちは、疑う気持ちが邪魔をすることもありますが、どうかそれを振り捨ててください。そして、これが聖書的な概念であること、また、神様はご自身の子らに語りかけながら、そこに存在されているのだということを、自分に言い聞かせてください。リラックスしましょう。私たちが自分のわざを休んで、神様の安息に入るとき、神様は思うがままに“流れて”くださいます(ヘブル人への手紙 4: 10)。ゆったりと座って、ペンと紙を取り、笑みを浮かべ、讃美しつつ主に意識を向け、主の御顔を求めてください。主にしたい質問を書き出し